

後藤 万里子 先生 最終講義のご案内

日 時：2025 年 3 月 31 日（月）午前 10 時より 45 分程度

開催形態：オンライン（事前登録: <https://kyutech-ac-jp.zoom.us/meeting/register/beQPY7IWRgqjlroUGJ02bA>）

講義題目：「九工大との 37 年」

早春の候 皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび 九州工業大学教授 後藤万里子先生におかれましては 来る 3 月 31 日をもってご定年退職されることとなりました。

後藤先生は 1986 年 3 月まで九州大学大学院文学研究科博士課程において英語学を専攻され 活水女子短期大学英文科講師を経て 1988 年 4 月に本学情報工学部講師として着任されました。1993 年には米国カリフォルニア州立大学サンディエゴ校で在外研究を実施、その後 2008 年までに「英語の現在形の形態素の意味機能」について それまでのご研究をまとめられ 九州大学で博士号を取得されています。2008 年より情報工学研究院人間科学系准教授、2014 年より 2016 年 3 月まで同教授を務められ、2016 年 4 月より教養教育院教授として現在に至るまで ご研究と英語教育に情熱を注がれながら後進の指導にも尽力されました。

研究面では 英語の単純現在形・現在進行形・現在完了形、欧州言語の単純形・完了形といった時制やアスペクトを対象として 認知言語学と歴史社会言語学の知見を取り入れた原理的記述に長年従事されています。一例として 古英語では純粋な名詞だった V-ing 形が 動名詞・現在分詞・形容詞・名詞の 4 機能を獲得した過程と進行形との関係に関する考察などがあげられます。ご研究成果は 歴史言語学・社会言語学・語用論・認知言語学といった各分野の学会で国際的に発表されてきました。後藤先生のご研究対象は英語の基盤構造に関わるものでありながら 原理的記述が困難とされてきただけに ご貢献の大きさは論を俟たず 長年の継続的な科研課題採択実績にも裏付けられております。

教育面においては 1991 年より 情報工学部英語カリキュラム改革に貢献され、入学時統一試験による 1 年次の習熟度別クラス編成の導入や、コアカリキュラムの策定に尽力されました。他大学に先駆けてパラグラフ・ライティングや多読課題を導入し 本学学生の論理的思考力向上を目的とした英文パラグラフの教科書も執筆されています。また、2002 年には習熟度別クラス編成テストとして TOEIC を導入され 習熟度別クラス編成を 2 年次以上にも拡充されるなど 現行制度の礎を築かれました。これらのご功績は枚挙に暇がありません。

最後に忘れてはならないこととして 後藤先生の授業では 「英語を話せるようになりたい」という学生の願いが数多く実現されてきました。情報工学部の卒業時アンケートにおいても 「語学力が向上した理由」として 多くの学生が後藤先生の授業を挙げています。アンケートの回答からは 「英語のみ」使用可能な環境のもとでリスニングとスピーキングの力が養われ 受講生が「どうすれば相手に伝わる表現で話せるか」を楽しく思考しながら、会話やプレゼンテーションの練習に励む様子がうかがえます。実際に 学部入学当時 TOEIC スコアが 600 前後であった学生が授業で後藤先生の指導を受けることで大学院入学時には 990 に到達したケースもありました。

最終講義となりますが 英語を自分の言葉にしようと邁進されてきた在学生・卒業生の皆様にとって本講義は今後の道標となる貴重な機会となることでしょう。ぜひお時間をおつくりのうえ ご参加ください。教職員の皆様におかれましては ご多用のところ誠に恐縮ですが ご挨拶の機会を頂戴できますと幸甚に存じます。